

赤い靴通信 425号

「天皇陛下のお言葉の放送が有るのでハゲ山(木がない山)に12時集合」と連絡があった。1945年8月15日(今から77年前の日)場所は朝鮮(今の韓国)忠清南道柳川面炭坊里、第五四三部隊、日本陸軍の大田飛行隊です。厳しい暑さ日、帽子を取ってラジオを聞く16歳の少年飛行兵松永春上等兵がそこにいたのです。長崎の原子爆弾投下のことを数日前に聞いたので日本敗戦の知らせかも知れないが、ラジオがびーびー言うだけで、たまに朕(チン)はという言葉が聞き取れるくらいで終り、まったく全容が分かりませんでした。

しかし、部隊長は「東京からの放送は聞こえにくかった。しかし、戦局は切羽詰まってきた。日本は神が守る国、負けることはない。万一負けたとしてもこの第五航空団(朝鮮工リア)だけは一兵に至るまで戦おう」と言ったのです。私はショックだった。その日は眠ることが出来なかった。

翌朝、中隊長から「敗戦ではなく終戦である」と曖昧な言葉を聞いた。「この朝鮮は独立を宣言している。もはや我々は武装解除して、すべてを朝鮮に渡さなければならぬ」とも言った。兵器が集められ、実弾も集められた。

翌日、班長から「松永上等兵はローマ字が書けるので司令部に転属することになる」と言われ、司令部に行くと「部隊長はハルピンに行っている、留守の間、部隊長当番を兼ねる」と言われた。新司令部は副官と一等兵2人で、1人はアメリカ工科大学卒業、もう1人はカリフォルニア工科大学卒業で、2人とも英語はペラペラの年上でした。私の方が位が上なのでやり難いかった。彼等は開戦前、日本の一流企業に就職したが、すぐに軍隊にとられたのだ。本来は士官候補生の試験を受ける資格があるのだが、慌ただしい入隊で叶わずそのランクになってしまったのだ。

私は年上の2人に会話は友達会話にしようと約束して出発した。早速、武器引き渡しがあり米軍の将校と5人の兵士が来た。こちらの副官は帝国大学(東大)卒で、語学堪能だった。相手の将校、兵隊と会話しそれぞれ笑顔で握手をした。私も拙い英語であいさつすると、副官が英語で「昨日の敵は今日の友」と言った。皆つ笑いしてまた一人づつ握手した。人間って不思議なものだと思ひ、このような相手となぜ戦争したのかなと思わずにいられた。鉄砲、拳銃、弾丸は数えず、こちらのリストで良いということになった。これは異例のことであったようだ。

その後二万人を越える名簿をローマ字で書き、終戦の2ヶ月目に帰国した。2人の米大学卒は米軍側から通訳として少しの間いてほしいと米軍基地に移動したのだ。私はあの思まわしい枕崎台風の真っ只中、汽船が木の葉の様に揺れて甲板まで溢れていた兵隊は雨と波で濡れ濡れになっていたが、一等船客室の司令部の者達は濡れずに博多に着いた。しかし、山陽線、山陰線とも復旧見込みたらず、動かない列車内その日は疎た。翌朝なり山陰線は橋梁破損しているが、若者ならロープをつたって五分くらいで対岸に着ける聞いて、私を含め、関東・東北出身者ら名がやってみようと集まり心強くなった。幸い米子までの列車が午後動く聞いて行くことにした。しかし、現場を見て愕然とした。確かに生きて帰れるのかの境地で恐ろしくなった。既に7人落ちて亡くなったと聞いた。「このロープで絶対渡るな」の標識があった。しかし、私達5人は飛行訓練で鍛えていたので助け合いながら多く



「第16回 東六忌」/ 高木東六作品 無言歌集より「祭りの夜」他を演奏する野中正先生



赤い靴通信 424号で紹介した最年少「あやとり教室指導員」に認定された大坂聡志君の作品動画をQRコードから見る事が出来ます。動画：カナコロチャンネルより



今後のスケジュール

★10/16(日) 10:00頃~予定 「東京湾大感謝祭 2022」 会場：横浜大橋ホール 出演：赤い靴ミュージカルキッズ 演目：横浜三塔ねご物語 観覧：無料 ※詳細は後日
★11/13(日) 午前の予定 「ハローよこはま」 会場：象の鼻パーク特設ステージ 出演：赤い靴ジュニアコーラス 観覧：無料 ※詳細は後日
★11/20(日) 音楽劇「青い目の人形」 会場：横浜人形の家 赤い靴劇場 出演：音楽劇団「まっかなホント」 ※詳細は後日
★12/2(金) 「中区音楽遊々」 会場：関内小ホール 出演：ザ・シワクチャーズ横浜 横浜男声合唱団 赤い靴ジュニアコーラス ATF~赤血 琵琶演奏 他 ※詳細は後日
★12/24(土) 25(日) クリスマスキャロル(各回・15分) 場所：ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル 1Fロビー 時間：各日①15:00~ ②16:30~ 出演：赤い靴ジュニアコーラス赤隊 観覧：無料

の人が見ている中、声もたえずに命がけて渡った。そして線路に客車が止まっていたので乗った。その晩遅く福知山まで行くと言つので乗っていると、巡查を先頭に町の人たちがおにぎりを籠に入れて客席を回ってきた。巡查は「このお米は遭難した船にあったもので町の人皆で用意したものです。一人2個ぐらいいかないと思ひます。お茶が無くお水ですが」と竹で作ったコップに柄杓で水を入れてくれました。私は涙が止まらなかった。日本に帰ってきてほしいと良かつたなとつくづく思ひました。やっと福知山に着き駅員に尋ねたら「いつもは石炭を積んでいる無蓋貨物車両ですが、東京に行きます。天気は良さそうなので苧を敷き、寒いと思ひますので苧を掛け布団として利用してください。」と言ってくれた。翌朝、皆の顔は煤で真っ黒になっていた。沼津の貨物駅で顔を洗った。誰かがカンパンの缶を開けてくれたの朝食だった。皆は東北地方なので私は別れて横浜貨物駅で降り、燃えた亀の橋の自宅に向かった。すでにフェンスで囲われ、黒人兵がキャチボールをしていた。フェンスの足下の木のボードに「春 お帰り、千代崎町にいるよ 父」と書いてあった。家に着くと皆泣いた。父は、私がもつす帰ってくるからと、自転車で毎日駅に行ったり、亀の橋に行ったりしていたんだよと妹が言った。この日、14歳で飛行学校に入り、16歳までの飛行兵生活は終わった。(2022年8月15日終戦記念日に記す。)

さて、19日(金)「第16回 東六忌」があかいくつスタジオで行われました。ザ・シワクチャーズ横浜の皆さんが代表的な東六作品を歌い、野中正先生が数あるピアノ作品の中から珠玉の3曲を心を込めて弾いてくださいました。再来年には高木東六先生の生誕120年の記念の年を迎えます。その頃には世界情勢も良くなり、また、オペラ「春香」の公演や演奏会が開催されるよう願っています。

そして先月号でご紹介しました最年少「あやとり教室指導員」に認定された大坂聡志君の作品動画を今月号でご案内いたします。右上のQRコードから見ることが出来ます。このような素晴らしい男の子に何かお手伝いをして世にだし、多くの人のためになるよう早速考えてみようと思ひます。皆さまも応援してください。

2022年8月31日

団長 松永 春